東京都立産業技術高等専門学校
研究・技術・教育シーズ集

人文社会分野

氏名	福田 浩之 / FUKUDA hiroyuki	職名	助教	学位	修士（文学）
所属	一般科目(国語) / 品川キャンパス	E-mail	h.fukuda(at)metro-cit.ac.jp		
シーズ キーワード	近現代の俳句、文学・芸術理論および批評、言説の系譜学的研究				

相談可能なテーマ	講座・講演会のテーマ例
・日本文学（特に近現代の俳句） ・表象文化論 ・そのほか表現に関すること	・中学生のための小論文講座（中学生向け） ・俳句ワークショップ（社会人向け）

研究・教育内容の紹介

＜近現代の俳句史における「見る」ことの系譜＞

現在、大きな枠組みとして、明治以降の俳句および俳論において、視覚に関する語彙がいかに用いられてきたのかを精査し、近代の俳句における「見る」ことについての言説の系譜を明らかにする研究を進めています。この研究は、俳句において長らく創作の実践に結び付けられてきた「見る」ことのありようを批判的に問うことや、現在の俳句というジャンルの成立過程を、絵画や映画、写真といった、さまざまな視覚文化との関わりのもとで捉えなおすことにもつながります。以下に、こうした枠組みのなかでおこなった研究の一例を挙げます。

＜赤尾兜子の第三イメージ論の再考＞

戦後の前衛俳句を担った俳人のひとり、赤尾兜子は、今日、第三イメージ論の提唱者として俳句史に名を残しています。しかし、この論をめぐる言説は、長らく混乱を来たしており、再考を要するものでした。資料の精査により、兜子の第三イメージ論は、その成り立ちから、従来の俳論と異なり、視覚的なものの枠組みを超えたイメージを志向していたことがわかりました。これを旧来の取り合わせ論や、同時代に金子兜太が提唱した造型論と比較することで、第三イメージ論の近現代の俳論史に占める独自の位置とその意義を示すことができました。

利用可能な機器/施設	所属学会/協会
	・表象文化論学会 ・俳文学会 ・日本近代文学会 ・昭和文学会 ・東京都立大学国語国文学会

その他参考事項